

開花

令和6年6月26日(水)

発行者：学年主任 加藤武

運動会を終えて…

6月1日(土)運動会後の学活で、生徒からでた感想文をご紹介します。

「負けられない」

2年A組 相見周我

僕は、個人種目で100メートル走を走るようになった。最初は、走ることは好きではないから正直面倒だと思った。そのまま時は流れ、予行演習の日になった。主に入場や退場を練習し、その他はサッと終わらせることができた。その中で知ったことがある。それは、100メートル走の隣のレーンは、ライバルがいる事だった。それを知ったときは、絶対に負けたくないと思った。その日から、体力をつけるために、部活では常に全力で走ったり色々できることをしていった。

そして、あっという間に当日になった。何回もやり直し、たくさん練習してきた入場を完璧に終え、ついに100メートル走の本番を迎えた。自分たちの番に近づけば近づくほど、心臓の音が高鳴る。やがて自分たちの番になった。マイクの声もかき消してしまうほどの歓声の中で、かすかな声が聞こえた。

「オン・ユア・マークス」

緊張が体を走る。ほんの一瞬さえもとても長く感じた。

「セット」

負けたくない、負けられない。そんな気持ちがよぎった。そしてその時が来た。

「パン！」

この音を聞いて足に力を込め、大きく前進した。その時は、止まっていた時間が急に流れ出した感覚で、無我夢中で走っていた。カーブを曲がって、コースを真っ直ぐ走る。ゴールは目の前だ。最後の力を振り絞り、ゴールテープを切った。いつもより疲れた体は、もう動かないが、心の中でガッツポーズをした。本当は短い時間だったのだろうけど、僕にはとても長く感じた。

結果はとてもよかった。これまで苦手だった走ることも、これからはもう少し好きになれそうだ。

「運動会を終えて」

2年B組 井町七海

6月1日、今年度初のクラスでの団結を深める大きな行事の運動会が行われた。リレーや学年種目の縄跳び、個人種目などの様々な演目があり、どれも全力で取り組んだが、私は、まずラジオ体操を頑張った。なぜなら、今年は2年生になり後輩もできたので、その見本になるくらい上手に体操をしなければならないからだ。さらに、私は、生徒会役員として前に出るので、余計に緊張した。しかし、当日は日々の授業での練習の成果もあり、のびのびと間違えることもなくやり切ることができた。来年は、最高学年として修正のないほど完璧な体操にしたいので、運動会が終わっても習慣的に練習していきたいと思う。

次に、私が頑張ったのは学年種目の大縄跳びだ。8の字跳びでは、はじめは連続で跳べなかつたり引かかたりしてしまっていたが、何回も挑戦することで、引かからずに連続で跳べるようになった。大縄跳びでは、最初の練習では、1回目から引かかってしまうことが多くあったが、並び方や間隔、跳ぶ速さなど様々なことを改善していくと、10回は軽く跳べるようになった。跳びながら回数を数え、前回より多く跳べた時は、チーム全員で達成感を得られたと思う。

本番では、最下位という残念な結果になってしまったが、練習を通して得られた達成感はクラスの団結につながり、それは、2学期の合唱コンクールなど別の活動に活かせる。そのため、結果ばかりを見るのではなく、自分がどれだけ頑張ったのか、どれだけ団結が強まったのかということを中心に、次回に繋げていきたい。

それぞれの生徒が、色々な思いで運動会に臨んだとは思いますが、個人で試行錯誤しながら練習を重ねたり、クラス全体でコミュニケーションをとったりすることで、運動会を通して、クラスや自分の目標を達成できたという生徒が多かった印象です。次回は、C、D組の作文をお送りします。

さて、定期考査も無事終わりました。しかし、気を抜かずに、残りの学校生活も目標を持って過ごしましょう。

